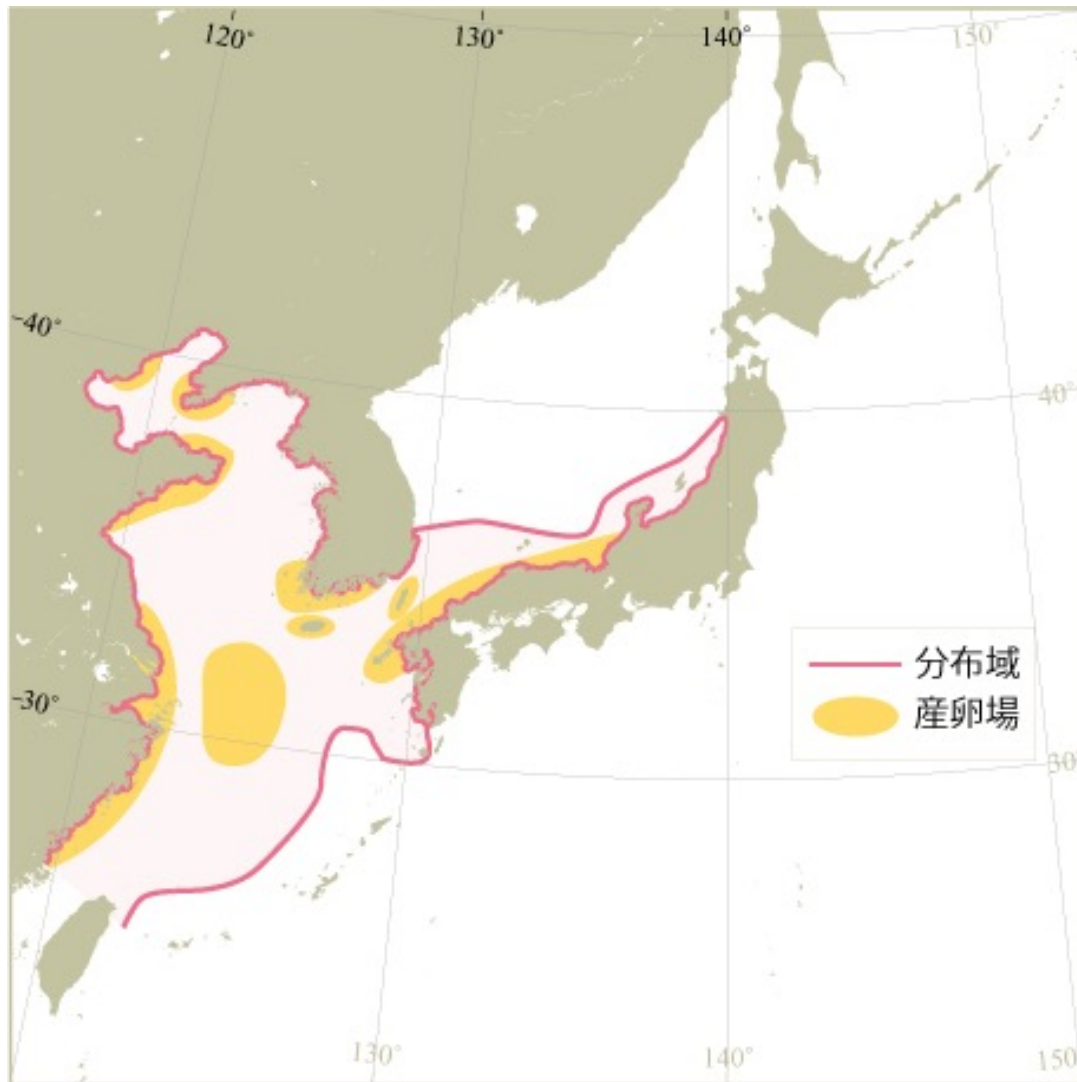




タチウオ日本海・東シナ海系群 令和4年度資源評価結果

生物学的特性

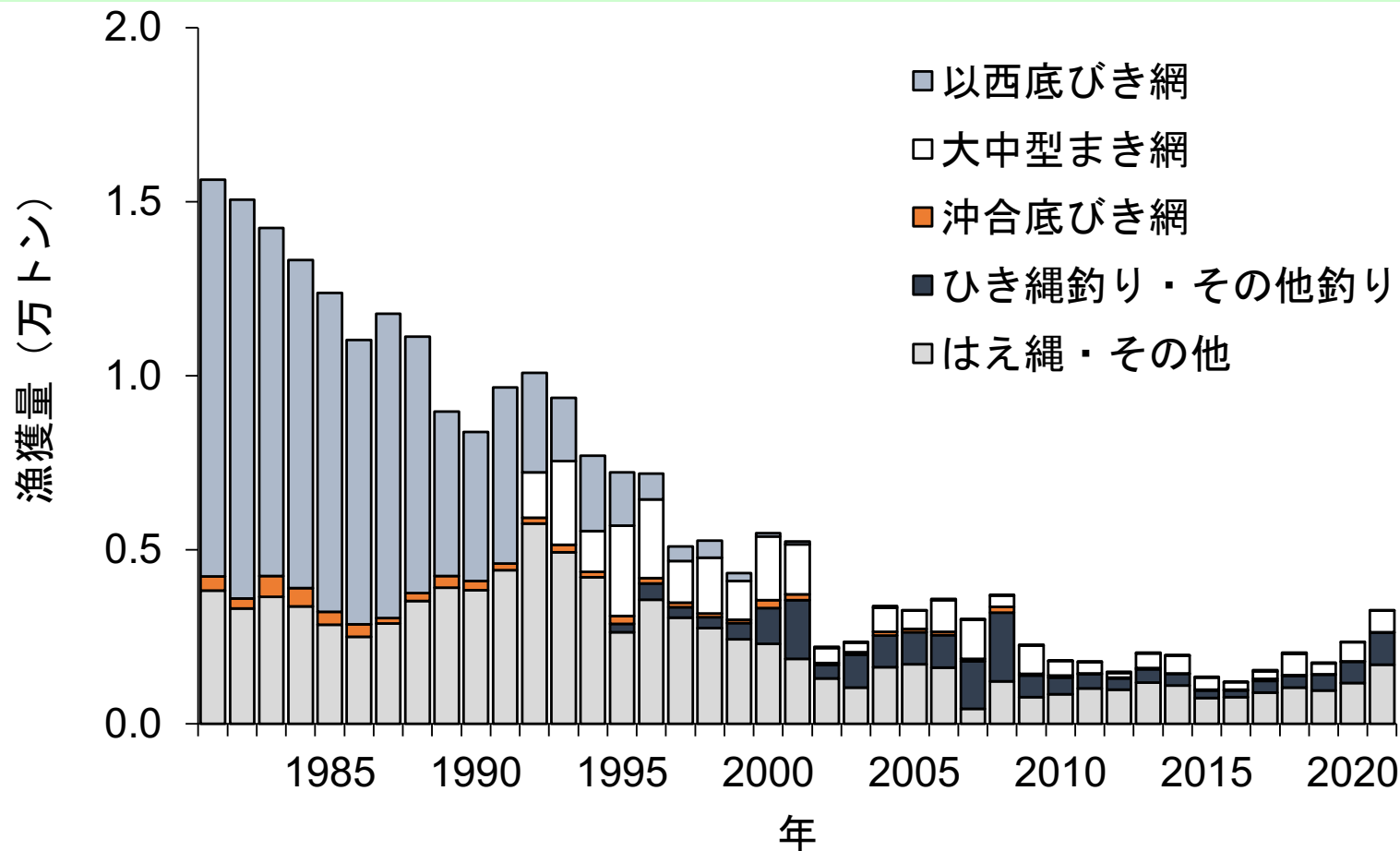


生物学的特性

- 寿命：8歳程度
- 成熟開始年齢：1歳（40%）、2歳（80%）、3歳（100%）
- 産卵期・産卵場：産卵盛期は日本海西部海域では秋季、東シナ海では春季。産卵場は主に黄海・渤海を含めた中国沿岸および我が国沿岸
- 食性：小型個体は小型甲殻類、中・大型個体は小型魚類
- 捕食者：共食い（越冬期、産卵期に多い）

- 年齢別成熟率は資源状況等により変化することが示唆されており、海域や年代の差が大きいと考えられる

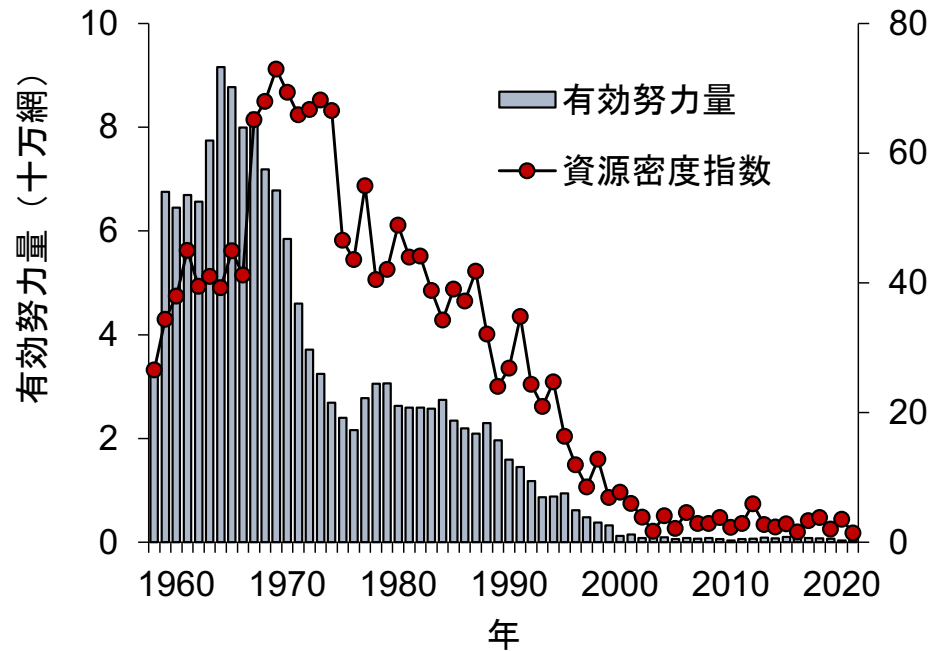
漁獲の動向①



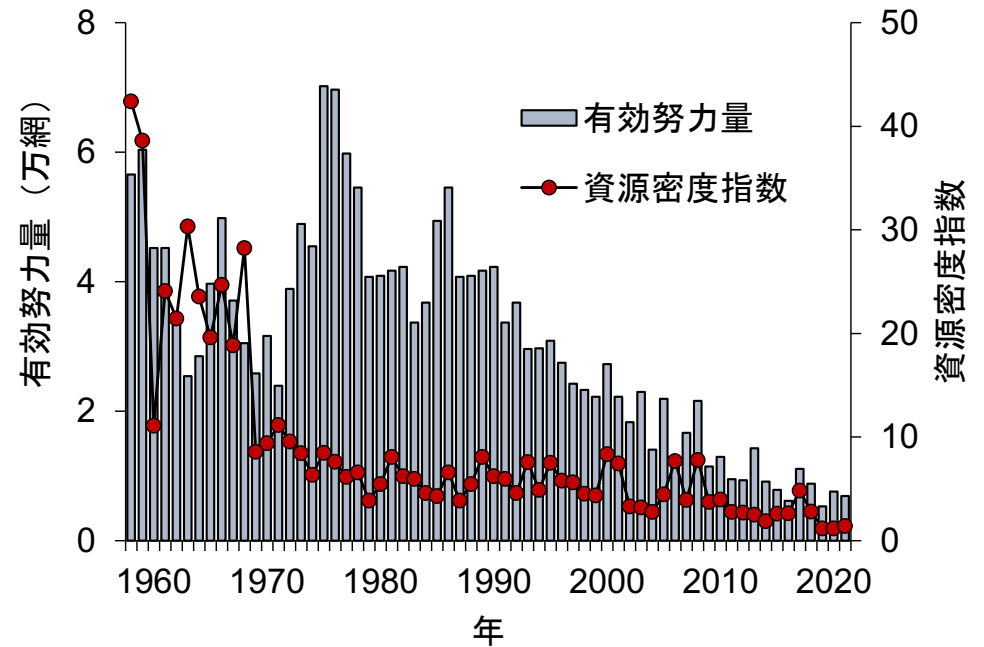
- 2021年の漁獲量：3,253トン
(2020年の漁獲量：2,356トン)
- 近年は、はえ縄・その他、ひき縄釣り・その他釣り、大中型まき網による漁獲が主体となっている

漁獲の動向②

以西底びき網漁業（以西）

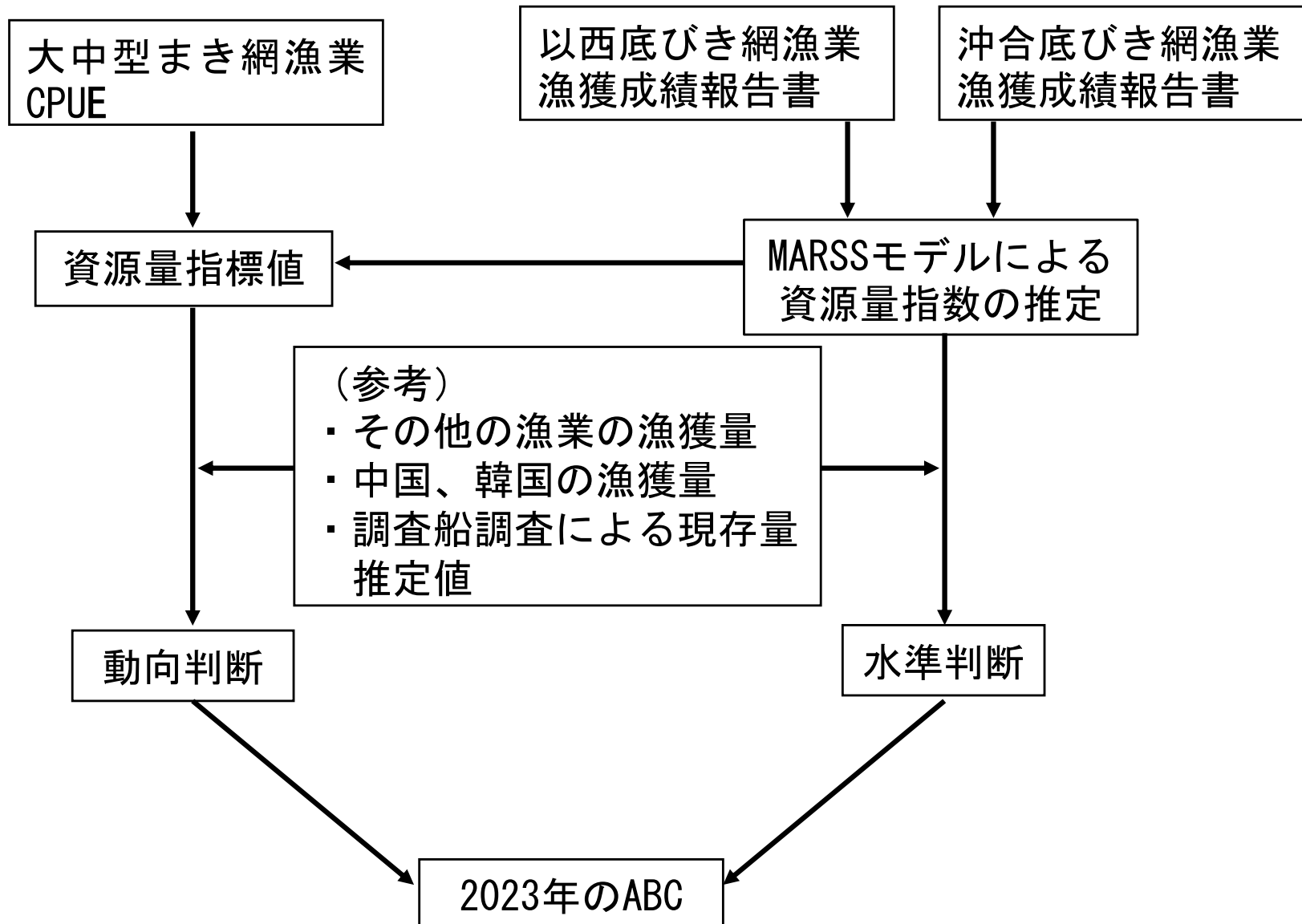


沖合底びき網漁業（沖底）



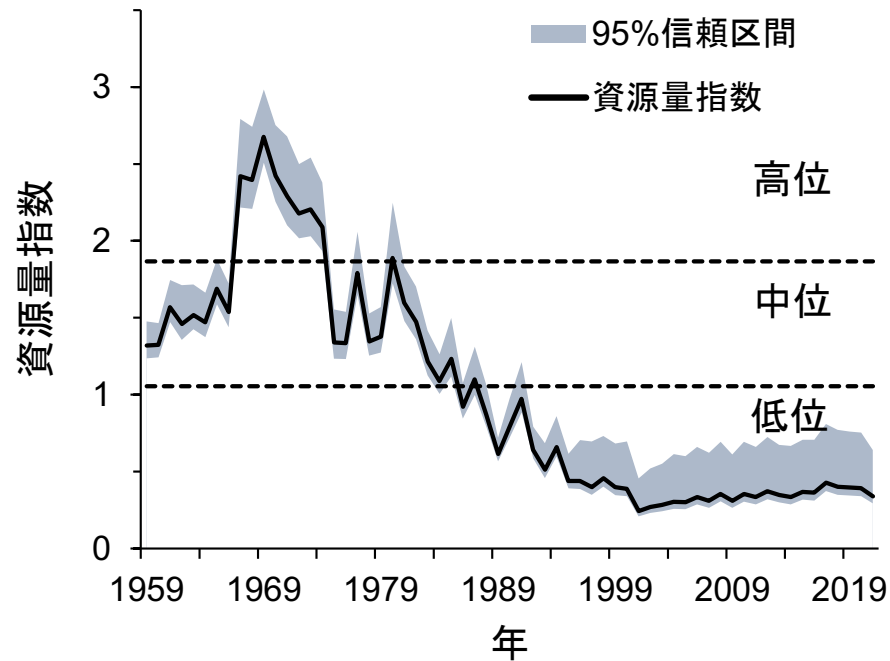
- 有効努力量は以西が1964年以降、沖底は1986年以降ともに減少傾向
- 2021年は以西が4.5千網、沖底が6.9千網

資源評価の流れ

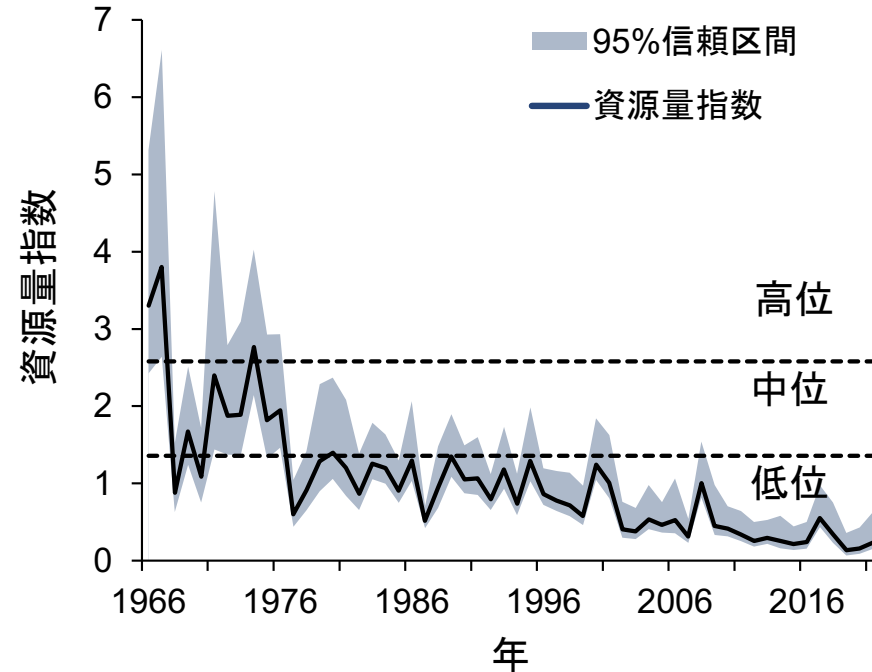


資源の動向①

東シナ海（全域）



日本海南西海域



※水準区分：資源量指数の最高値と最低値の間を三等分し、それぞれを低位、中位、高位の境界とした。

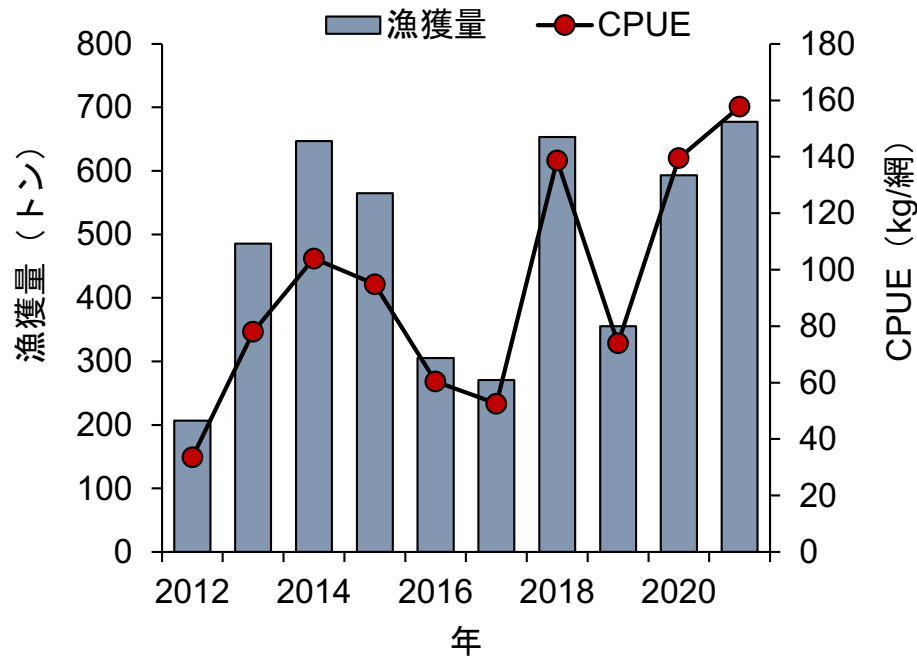
東シナ海：高位/中位 資源量指数1.87 中位/低位 資源量指数1.05

日本海南西海域：高位/中位 資源量指数2.58 中位/低位 資源量指数1.36

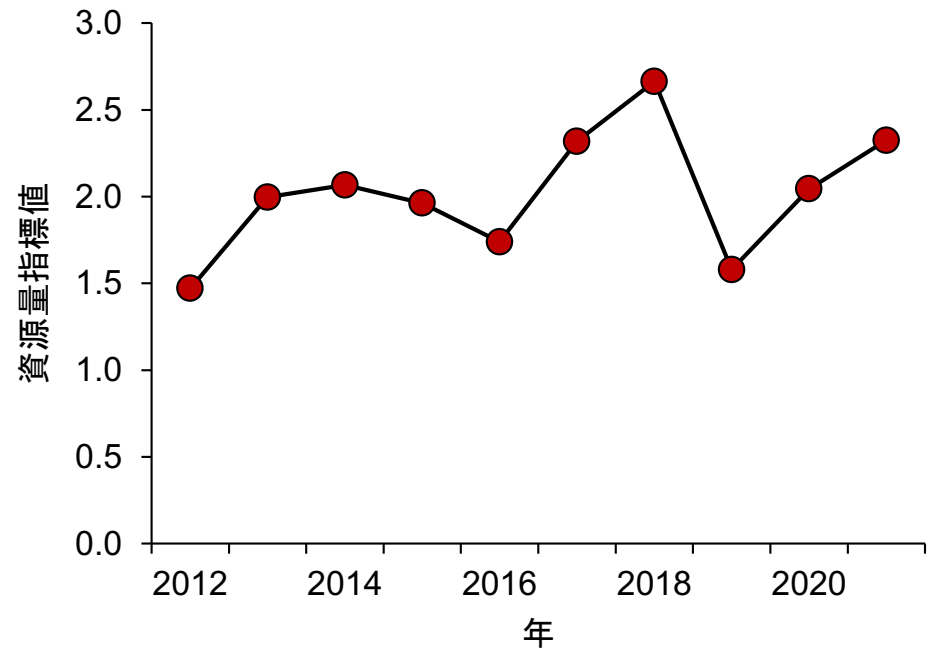
- 資源水準：MARSSモデルで求めた資源量指数は東シナ海が0.34、日本海南西海域が0.23であり、ともに「低位」

資源の動向②

大中型まき網の漁獲量とCPUE



資源量指標値



- 資源量指標値は、東シナ海と日本海南西部海域それぞれの資源量指数と大中型まき網一網あたりの漁獲量（CPUE）の相乗平均から算出
- 資源動向：資源量指標値の推移から動向は「横ばい」

資源評価のまとめ

- 資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- MARSSモデルによる東シナ海・日本海南西海域の資源量指数から資源水準を、資源量指標値の推移から資源動向を判断

2023年のABC

管理基準	Target/ Limit	2023年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増減%)
0.7・Cave3-yr・1.19	Target	16.3	—	—
	Limit	20.4	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7 (資源水準が低位かつCaveを用いた場合の推奨値)
- Ct : Cave3-yr (直近3年間 (2019~2021年) の平均漁獲量)
- γ_1 : 1.19 (資源量指標値の推移より算出)